

令和 7 年 1 2 月 2 5 日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会

2025年12月8日 青森県東方沖の地震の評価（案）

- 12月8日23時15分に青森県東方沖で、深さ約55km、マグニチュード(M)7.5の地震が発生した。この地震により青森県で最大震度6強を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。また、この地震により青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測した。
 今回の地震により、岩手県久慈港観測点で0.7m、北海道浦河観測点で0.5m（いずれも速報値）など、北海道から福島県にかけての太平洋側で津波を観測している。
- 発震機構は西北西―東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、発震機構及び震源の深さから陸のプレートと太平洋プレートの境界で発生した地震と考えられる。
- G N S S 観測によると、今回の地震に伴って、青森県下北郡東通（ひがしどおり）村の東通2観測点が東方向に約9cm移動するなど、青森県を中心に地殻変動が観測された。また、陸域観測技術衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の合成開口レーダー干渉解析の結果によると、今回の地震に伴い、青森県東部で約9cmの東向きの変動及び約5cmの沈降の地殻変動が検出された。また、G N S S 観測によると、およそ10日間で1.3cmの水平変動など、余効変動と考えられる地殻変動が観測されている。
- M7.5の地震発生直後と比べ、地震回数は減少してきているものの、12月22日までに最大震度1以上を観測した地震が47回発生するなど、地震活動は継続している。地震活動域は、M7.5の地震の震央から東南東方向におよそ100km広がっている。さらに、M7.5の地震の発生以降、地震活動域よりも東の領域で微動が発生している。
 M7.5の地震の活動域は、「1968年十勝沖地震」(M7.9)の震源域内の北部に位置し、南側は「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6)の震源域に隣接している。さらに、その南東側では、11月9日の三陸沖(M6.9)の地震活動が見られる。
- 今回の地震は、地震調査委員会が「日本海溝沿いの地震活動の長期評価（平成31年2月26日公表）」で想定していた「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の領域で発生する「ひとまわり小さいプレート間地震」(M7.0～M7.5程度)である。なお、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」は同領域の「ひとまわり小さいプレート間地震」とされ、また、「1968年十勝沖地震」は同領域の「プレート間巨大地震」(M7.9程度)とされている。さらに、今回の地震の活動域の東には、1896年明治三陸地震（津波マグニチュード8.6～9.0）の震源域が広がっており、「青森県東方沖から房総沖にかけての海溝寄り」の領域で発生する「海溝寄りのプレート間地

震（津波地震等）」に該当する。これらの評価対象地震の 30 年以内に発生する確率はⅢランク（高い）に該当し、海溝型地震の中では、地震発生確率が最も高いものと位置づけられる。

＊：海溝型地震における今後 30 年以内の地震発生確率が 26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「X ランク」と表記している。

注：G N S S とは、G P S をはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。